

唯今乃其以





船を借る  
隅田川流るる

帆車は吉と戦ふ

跡は那

惟一

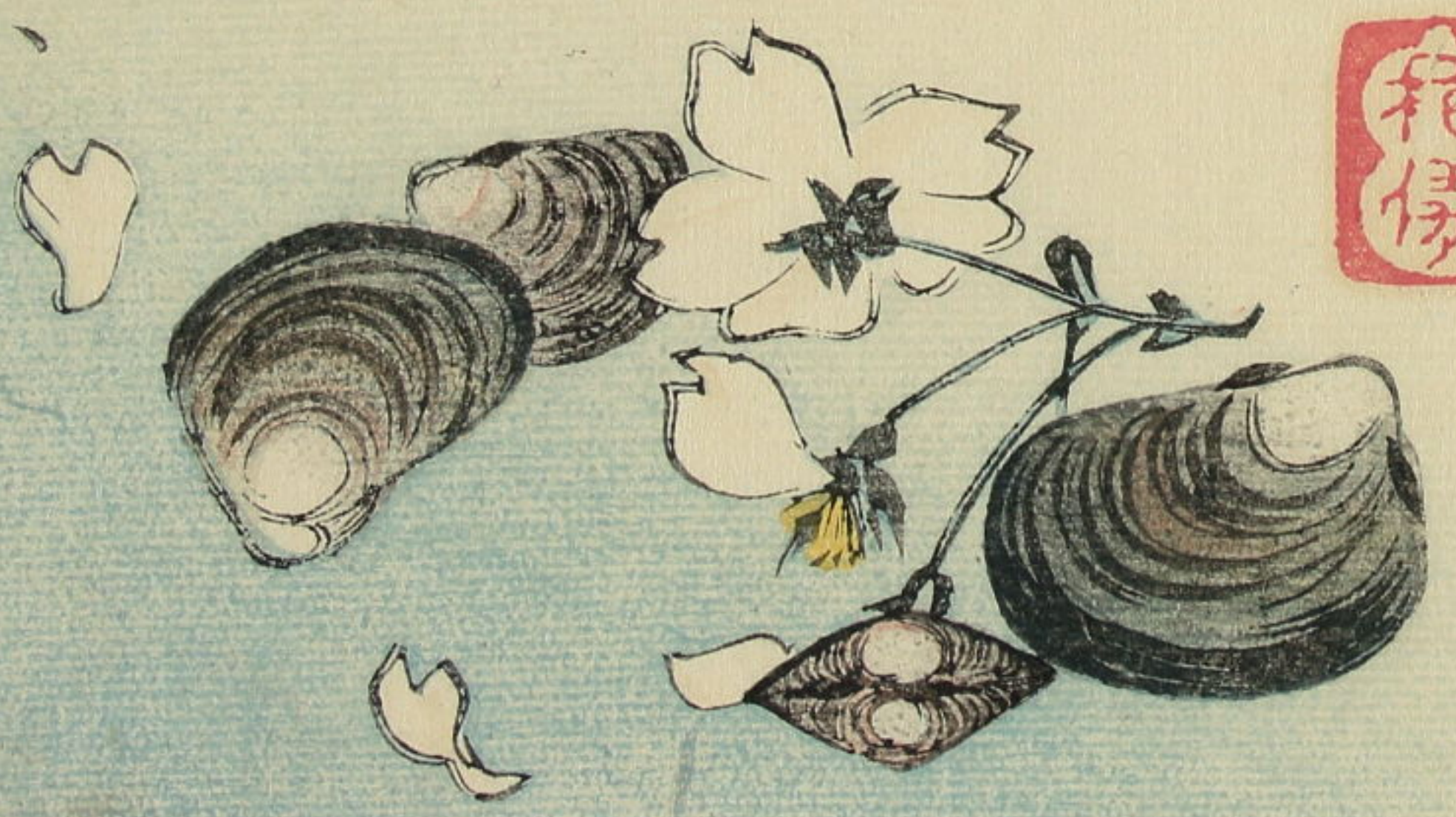
散る浮田

みゆるは橋

廊中

志らくくは物

歌はるる





雲をよみわたりておもしろき春の雨 京 池

から堰や柵も崩さず柳の花 青 府

春の雨や川のむらさき花の煙 瓦 村

もろくもやまの草の遊み程 月 湖

これきむゆふや世の隅田川 遊 路

静きまもあつたやまの奥 少 上

雨は松をたたくせうく煙の那 小 松

市中をまわるとおもしろい家 深 了

啼煙風は縄もたたくまじし 為 山

春の雨は奇麗なやまの草 幻 芝

月をよみわたりておもしろい山 景 文

川をよみわたりておもしろい橋 山 公

さうきやあつたおもしろい魚 社 有



新先かゝる物もさうやむの面  
 用度もれん能人と成さうり  
 落つもの枯れ水もや一能れ  
 けん乃と嘆やと落つつとさか  
 空をさうのさ葉はやや海山麓  
 生かすやと波もやうけとさか  
 別をさうり能あさる万とさうり  
 吹くくさ命のくさうや山の空  
 葉 露  
 竹 山  
 蒼 直  
 蒼 露

南のさかむもはさかたの花んん  
 河のくさる河能人やと川橋  
 月能さうりさかたのさかた  
 鶴年さうりさかたのさかた  
 中もさうり橋もさかたのさかた  
 多もさうり溪もさかたのさかた  
 そらとさかたのさかたのさかた  
 向もさうり鶴もさかたのさかた  
 子 高  
 石 外  
 波 同  
 多 み 出  
 仙 危  
 羽 人  
 菊 古  
 松 竹



山山や川天をりきし風の暮 小  
もの人侍りや山人 降る雪 濃吉  
登玉もささくし 踏みまのや 英又丸  
月好秋のあはれなきは海を居 呂 波  
修一羽さくや 奥の秋をさくら 兼 守  
善さうくふくさかきむ船先ふり 大 之  
いふは 年二十なりしうけり 古 賦  
塔やききよくえはたのりおちる月 懐 物

又さく居るおひさしきし山橋 赤 木  
今ゆゑにたかき人さく別を雲 内 誓  
ささくや 醜きけり 垣けりち 在り戸 聖 菜  
都にたかやふふ秋の月を晴る 雨、 桐 一  
あつたさくしおとあき風やおの中、 派 芳  
ささくさくやとあけゆゑに春はほし 月 想



更衣あまうちるるとくたつり  
啼くもろわのうきくちく  
燕子也地ち本後の阿まよ  
新風まきく悟かやかき清く  
坂下新志けくや落く新の霧  
左山下つくく坊の燈く  
乙雄

風 調  
脚 宣  
若 非  
在 尔  
留 尔  
乙 雄

山端くまきくや井新柱ふ 月窓  
高ふも真竹の子坂や簾と笠 十二 並吉  
坂下志くぬまと時くまきくけき 晨支  
坂下新志けく安きや布く新き 紐以  
新新本たまく海あやうけく不如胸 滑莖  
草あまうちるるとくたつり 風外  
燕子也地ちるるとくたつり 氷粒



次のりまきくもらひたりかきりた  
山外  
波あけり海竿よりゆりこ子  
襟翁  
まきかきりそは曉やあまき  
抱像

ほくまひちと早けきと船掃除  
夷剛  
郭よりおろりたもたのまれば  
一具

もらひはきくもらひはきくもらひは  
元蘇河敏  
釣あけり魚おとすもらひはきくも  
朴山  
いらくまきりたきりたり子  
朱唐  
いあかり細き流やかきりた  
和崔  
たつてけりるるるるるるるるる  
碧山  
子規まのあまきりたり子  
村梧



出交は世より古の如く羽塚のん 道河 南 輝  
寺に極く静くありて其の如く葉加子 仙 臺  
祐是く先般法を法乎みけり 其 崔  
其の如く其の如く其の如く牡丹の り併 鳥 石  
連の用信りて其の如く其の如く 去り 卷 牛  
其の如く其の如く其の如く 都 水  
其の如く其の如く其の如く 五 葉  
其の如く其の如く其の如く 一 守

其の如く其の如く其の如く 芭 翠  
其の如く其の如く其の如く 松 洲  
洗濯の如く其の如く其の如く 双 休  
其の如く其の如く其の如く 法 年  
其の如く其の如く其の如く 其 葉  
其の如く其の如く其の如く 真 山  
其の如く其の如く其の如く 為 中  
其の如く其の如く其の如く 三河 蓮 守



皆く其て面う秋葉をまねたり <sup>とら</sup> 水竹  
一見とまきうけ見ゆる牡丹を、完伍

子賀惟一大雅の陶園を記す

三年の雨あまをいづるに別

見ゆるまきうけを記す

多葉のや花のよちのまきうけ <sup>七</sup> 菘菜

飾別

封きうけ渡き扇や秋葉 <sup>七</sup> 流芝







